

『チャレンジ
challenge』

令和6年1月16日

文責 安井 仁

テストを生かす

1月9日、3学期始業式。この日に冬休み明けテストがありました。今回のテストは、冬休みの課題からの出題ではなく、今まで習ったところから範囲を指定して出題する、いわゆる「実力テスト」でした。学校の定期テストがその学期に学習した内容の理解度や定着度を測るのに対し、「実力テスト」はもっと広い範囲の理解度、定着度を見るためのテストです。出題される問題がある程度予想できる定期テストに比べて対策が立てにくく、本当に理解できているのかどうかの実力を測るためのテストと言えます。

そのため多くの生徒の「点数が低く、ショック」という声をいつも以上に耳にしましたし、実際に平均点は全教科50点を下回る結果となってしまいました。中学校生活2年半以上やってきた学習の理解度・定着度が不十分な生徒が多いと言わざるを得ない結果です。ちなみに最高点はいつもとあまり変わりません。詳しくは先週の金曜日に成績ファイルを配布していますので、必ずご確認ください。

しかし今回のテストは、決して悪いことばかりではないように思います。ショックを受けることができたという成果を得ることができたことは、必ず未来につながります。以前はできていたのに忘れてしまったり、わからない問題があったりするの当たり前です。「テスト後の勉強」が重要なのです。良かった、悪かっただけではなく、次は少しでも良くなるようテストを生かすことが成長の秘訣です。

ある女子生徒が「**まナビの数学の方程式の問題で、いつもはわからないとすぐ答えを見て写すだけなのに、答えを見ずにじっくり考えたらわかった。一度理解できたら、他の方程式の問題もできるようになった。**」と話してくれました。また、正副室長会での学年の目標は「3年生に向けての一步を踏み出す」に決まり、具体的な取り組みは日々の自学ノートとまナビの提出をチェックすることになりました。よく入試は個人戦ではなく、団体戦でもあると言われます。残念ながらどのクラスも授業態度や課題提出率が良いとはいえない状況です。少しでも3学期で改善し、来年度につながるきっかけとなることを信じています。

そこで各教科の先生方から今回のテストを通して見えた生徒の課題やこれから意識して取り組んでほしいことを挙げていただきました。これらを参考にしてみたいはいかがでしょうか。次の実力テストは3月6日です。

教科	生徒の課題やこれから意識して取り組んでほしいこと
国語 清水先生	漢字の読み書きは小学校と中学1年生で習ったもので入試もその傾向あり。問題文を理解していない生徒が多く、普段からじっくり読み、考えることと意味の分からない言葉は調べることを習慣化させる必要がある。
数学 青山先生	図形など直近の授業でやったことは比較的点数が取れていた。1年生や2年の前期の範囲はかなり正答率が低く、定着には至っていない。今後、まナビを計画的に行い、基礎力を身につける必要がある。
社会 佐々木先生	資料やグラフを見て答える問題は慣れや解答のパターンがあるが、苦手意識があるためか答えていない生徒も見られた。まずは基本となる語句を覚え、多くの問題をこなすことが大切である。
英語 倉本先生	日々の授業の復習に取り組んでいる生徒は少なく、課題も単語を書くだけの作業になっている生徒が多い。今回のように基礎の定着や応用力を試されるテストでは「ねばり強く考え、学習したことを思い出す」ことが必要である。
理科 義仲先生	答えをただ書き写したり、語句を書くだけでなく、覚えたことを書きだす作業を繰り返す行うことで力は定着するので、まずは授業に真剣勝負して理解するよう努めるとともに、多くの問題をこなしていく必要がある。

